

令和2年度 矢向小学校 学校評価 保護者アンケート 集計結果および次年度の取り組み

回答率 93% 695 (回答数) / 747 (家庭数)

		令和元年 (前年度)										令和2年 (本年度)																	
		A : とても思う B : そう思う C : あまり思わない D : 全然思わない E : 分からない																											
No.	取り組み分野	評価項目																											
		A	B	C	D	E	合計	A+B	C+D	E	A	B	C	D	E	合計	A+B	C+D	E										
1	生きて働く知	学校は、子どもたちの学力向上に努めている。										17%	72%	7%	0%	4%	100%	89%	7%	4%	17%	66%	10%	1%	6%	100%	83%	11%	6%
2		学校は、専科や少人数の授業を取り入れ、多くの教職員で子どもの成長を支えている。										16%	45%	19%	2%	18%	100%	61%	21%	18%	20%	60%	9%	1%	10%	100%	80%	10%	10%
3	豊かな心	学校は、行事や集会などを通して望ましい人間関係を築いたり、友達のよいところを認めようとする気持ちを育てたりしている。										24%	63%	4%	0%	9%	100%	87%	4%	9%	23%	60%	7%	1%	9%	100%	83%	8%	9%
4		学校は、気持ちのよいあいさつの指導に力を入れている。										39%	49%	7%	1%	4%	100%	88%	8%	4%	33%	49%	10%	1%	7%	100%	82%	11%	7%
5	健やかな体	学校は、体育朝会や集会を通して子どもが運動に親しむ機会を多くつくり、体力の向上に努めている。										20%	55%	11%	0%	14%	100%	75%	11%	14%	16%	58%	14%	1%	11%	100%	74%	15%	11%
6		学校は、保健や食に関する指導を行い、子どもの健やかな体づくりを進めたり、保健だよりや給食だよりを通して健康への理解を深めたりしている。										40%	57%	5%	0%	1%	103%	97%	5%	1%	34%	62%	2%	1%	1%	100%	96%	3%	1%
7	特別支援教育	学校は、子ども一人ひとりの願いや実態の把握に努め、個に応じた支援や指導を行っている。										14%	51%	20%	1%	14%	100%	65%	21%	14%	17%	49%	18%	2%	14%	100%	66%	20%	14%
8		学校は、子どもが安心して学習したり生活したりできる環境づくりに努めている。										27%	61%	5%	0%	7%	100%	88%	5%	7%	22%	63%	9%	1%	5%	100%	85%	10%	5%
9	児童生徒指導	学校は、きまりや約束を守って規律正しい生活を送ることができるよう指導している。										26%	69%	2%	0%	3%	100%	95%	2%	3%	20%	70%	4%	1%	5%	100%	90%	5%	5%
10		学校は、子どもの思いを把握し寄り添った教育活動を行うために年2回、子ども一人ひとりとの面談を行っている。										25%	49%	7%	0%	18%	99%	74%	7%	18%	16%	53%	8%	2%	21%	100%	69%	10%	21%
11	地域連携	学校は、地域の教育力を活用している。										26%	49%	8%	1%	16%	100%	75%	9%	16%	17%	54%	10%	1%	18%	100%	71%	11%	18%
12		学校は、地域コーディネーターや矢向小サポーターズ (各種ボランティア) と連携し教育活動の充実に努めている。										20%	61%	8%	0%	11%	100%	81%	8%	11%	19%	62%	8%	1%	10%	100%	81%	9%	10%
13	いじめへの対応	学校は、子どもたち一人ひとりが安心して生活できるよう、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めている。										19%	48%	16%	1%	16%	100%	67%	17%	16%	13%	52%	11%	1%	23%	100%	65%	12%	23%
14		学校は、学校だよりや懇談会などで教育活動や子どもの様子を伝えている。										32%	63%	5%	0%	0%	100%	95%	5%	0%	27%	61%	8%	1%	3%	100%	88%	9%	3%
15	幼保小中連携	学校は、9年間の成長を見通して、幼稚園、保育園、中学校との連携に努めている。										16%	38%	8%	1%	37%	100%	54%	9%	37%	13%	48%	15%	2%	22%	100%	61%	17%	22%

No.	取り組み分野	結果及び次年度の取り組み									
1	生きて働く知	肯定的な回答が6%減少している。主体的に学習に取り組めるようにカリキュラム・マネジメントを継続する。									
2		肯定的な回答が1%増加している。個に応じた授業が実践できるように教職員を配置することで、本校がもつ教育力を発揮することができた考えることができる。今後も学校全体で子どもの成長を支えていく。									
3	豊かな心	肯定的な回答が4%減少している。コロナ禍においても、できる限り行事や集会を行ってきた。次年度も状況に合わせて取り組みを継続する。									
4		肯定的な回答が6%減少している。子ども同士や対教師だけではなく、家族や地域の方々ともあいさつができるように指導していく。									
5	健やかな体	肯定的な回答が1%減少している。子どもの運動する機会が制限される中、例年通りの活動ができなかった。									
6		肯定的な回答が1%減少している。例年同様の各種取り組みに加えて、コロナ対策を十分に行った成果だと考えられる。毎日の健康観察票 (検温) は家庭の協力がなければ継続できなかったと感じる。家庭との連携を継続していく。									
7	特別支援教育	肯定的な回答が1%増加している。NO.2の設問と同様に個に応じた支援が実践できるように教職員を配置することで、本校がもつ教育力を発揮することができた考えられる。今後も学校全体で子どものニーズに合った支援を行ったいく。									
8		肯定的な回答が3%減少している。コロナ対策に不安を感じる家庭もあったのではないかと考える。									
9	児童生徒指導	肯定的な回答が5%減少している。生活上のきまりだけではなく、インターネットやSNSの正しい使い方など指導する事柄は年々増加している。家庭との連携を密にしていく必要がある。									
10		肯定的な回答が5%減少している。教育相談を継続しつつ、その意義を教職員が見直すことで、これまでの実施方法に捉われない方法を検討する。									
11	地域連携	肯定的な回答が4%減少している。コロナ禍での制限がある中でも、活用した学年、学級があることも伝えていく必要がある。また、新しい生活様式に合った活用方法も研究していく。									
12		昨年同様の結果となった。持続可能で質の高い教育活動をめざし、地域コーディネーターや矢向小サポーターズ (各種ボランティア) と連携を強化していく。									
13	いじめへの対応	肯定的な回答が2%減少している。だれもが安心して生活できるよう、特にいじめの未然防止に力を入れた指導を継続していく。いじめを見逃さない職員の資質をさらに向上させる。									
14		肯定的な回答が7%減少している。学級懇談会が行えずに授業参観も一回になってしまったことが起因していると考えられる。新しい生活様式に合った伝え方を検討していく。									
15	幼保小中連携	肯定的な回答が7%増加している。矢向中学校ブロックや幼稚園、保育園などの連携事業を継続していく。									